

経営発達支援計画の概要

実施者名	島田市商工会（法人番号 2080005005217）		
実施期間	平成28年4月1日～31年3月31日		
目標	<p>地域内の小規模事業者の事業の持続的発展を実現するため、商工会エリアの「島田の逸品 しまだブランドの確立」を目標とする。また、新たな商品作りや創業支援、事業承継支援への取り組みを強化することを目標とする。</p> <p>また、ブランドが確立した後、販路拡大事業を展開し、創業者の支援、事業承継支援を強化し、高齢化が進む当地域にあったまちづくりを目指しながら商店街の再興を長期的な目標とする。</p>		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域発達支援事業の内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の経済動向調査 <p>地区内の経済動向を調査・分析し、現状の把握と課題の抽出</p> 2 経営状況の分析 <p>新商品開発等を目指す小規模事業者を対象に分析を行う。</p> 3. 事業計画の策定支援 <p>小規模事業者の課題を解決するための事業計画策定支援を行う。</p> 4. 事業計画策定後の実施支援 <p>専門家によるフォローアップ。販路開拓の戦略提案。 新商品開発支援。国、県、市、県連合会の行う支援策の広報等の周知。</p> 5. 需要動向調査に関する支援 <p>小規模事業者を利用する来店客の調査の実施。消費者懇談会等の実施。 調査結果を新商品開発等の基礎データとする。</p> 6. 新たな需要の開拓に寄与する事業 <p>地域ブランドとして評価できる商品の選定、開発の支援。 商談会等に参加、または開催。観光マップ等の作成により国内外からの観光客の消費を促進させる。</p> ・地域経済の活性化に資する取り組み <p>島田市、島田商工会議所、島田観光協会等と連携し、今後の地域経済活性化の方向性の検討と共有。</p> ・経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取り組み <ol style="list-style-type: none"> 1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換 2. 経営指導員の資質向上 3. 事業評価と見直しをするための仕組み 		
連絡先	本所、金谷支所	〒428-0026 静岡県島田市金谷本町 2014-2	0547-45-4611
	初倉支所	〒427-0111 静岡県島田市阪本 1449-1	0547-38-0009
	川根町支所	〒428-0104 静岡県島田市川根町家山 359	0547-53-2170
	ホームページアドレス	http://www.shimada-sci.jp/	

(別表1)

経営発達支援計画

経営発達支援事業の目標

平成21年度に初倉商工会、金谷商工会、川根町商工会が合併して島田市商工会が設立した。当地域は島田商工会議所との併存地区であり、当会は主に大井川右岸を事業活動のエリアとしている。当地域には富士山静岡空港や新東名金谷ICが立地され、交通アクセスが充実し、基幹産業の茶業のブランド化、豊かな水資源を活用した工場誘致、温泉施設を利用した観光交流等の自然や環境における強みを持っている。

島田市商工会は、小規模事業者に対し金融、税務等の日常の相談指導、経営革新申請等の専門的な指導を実施するとともに、地域総合経済団体として行政、自治会等の関係諸機関と連携しながら地域活性化のオピニオンリーダーとして存在している。

しかしながら、長引く景気の低迷状況の中、以下のような課題も山積している。

(現状の課題)

- ①経営者の高齢化に伴う後継者不足が理由による廃業の増加
- ②商店の減少による買い物弱者の増加
- ③近隣市町の大型店等への消費の流出
- ④基幹産業の「茶業」の景気低迷

そして、上記の課題に対する対応策として、以下の内容を経営発達支援事業の重点目標とする。

- ①小規模事業者の現状の調査
- ②小規模事業者の経営分析、経営計画の策定支援
- ③新商品等の開発による販路開拓
- ④創業支援、事業承継支援
- ⑤空き店舗対策

一方で、島田市は、商業の活性化の重点目標としてにぎわい創出事業や起業、経営改善に関するセミナーの開催、島田ならではの逸品「しまだブランド」認証制度の創設などを掲げている。

以上のことから、静岡県、島田市、地域金融機関その他支援機関と連携し、個別企業の経営力向上、販売促進等を継続して支援するとともに、販路拡大を行うプロジェクトを構築し、島田市が予定している「しまだブランド」関連事業に参画し、商工会エリアの「島田の逸品—しまだブランドの確立」を中期的目標とする。

また、ブランドが確立した後、販路拡大事業を展開し、創業者支援、事業承継支援を強化し、高齢化が進む当地域にあったまちづくりを目指しながらの商店街再興を長期的な目標とする。

経営発達支援事業の内容及び実施期間

(1) 経営発達支援事業の実施期間（平成28年4月1日～31年3月31日）

(2) 経営発達支援事業の内容

I. 経営発達支援事業の内容

1. 地域の経済動向調査に関すること【指針③】

(現状)

静岡県商工会連合会が毎月実施する小規模企業景気動向調査の際に経営指導員が一人当たり30件程度からヒヤリングして報告している。同調査では、業況、売上高、仕入単価、採算、資金繰りの5項目について前年同月との比較を5段階で実施しており、毎月調査報告書が出されている。しかし、報告内容が静岡県単位であることや経営指導員は担当する事業所の個別課題の対応に終始し、調査結果が商工会全体で活用されていない。また、事業所も固定化される傾向にあり回答もマンネリ化しているのが現状である。さらに、年3回島田商工会議所と合同で島田市景況調査を実施している。島田市商工会からは3支所中の各支所30～40事業所を抽出し、経営指導員が巡回して調査依頼、回収を行っている。当調査では、小規模企業景気動向調査の5項目に従業員、設備投資を加えた7項目について1年間、3ヶ月間の比較及び今後3ヶ月の見通しを3段階で評価している。しかし、島田商工会議所が主体的に行っているため、質問項目は商工会議所が決定し調査結果も島田市全体でまとめられる。そのため、商工会地区の現状を反映したものになりにくく、質問項目も地域経済の大凡の動向を把握する内容となっている。また、商工会が単独で行う調査と同様、事業所の固定化と回収率の低下が課題である。

(改善に取り組む内容と目標)

現在実施している調査では、調査対象の事業所を定期的に見直し、固定化を避けることで回答のマンネリ化を防ぐことと回収率の向上を目指す。そして、商工会単位での業種ごと、地区ごとの分析を行い巡回指導やセミナー開催等に生かしていく。さらに、従来の調査以外に当商工会独自の景気動向調査を実施し、商工会地区の経済動向を調査する。

(事業内容)

経営指導員等の巡回指導の際、全会員を対象にしたアンケート調査を30年度まで毎年実施し、現在の調査では把握できない下記の項目について調査を行う。特に「島田の逸品—しまだブランドの確立」については、1年目に会員事業者の現状把握及び要望の聞き取り、2年目に取組の検討及び候補のリストアップ、3年目に取組の具体化と候補の絞り込みに重点をおいて調査を実施する。

・調査項目

- ①販売商品、生産内容、サービス内容等の調査
- ②新商品開発の予定、計画の有無

③後継者の有無

④その他経営分析に必要な数値や経営上の悩み等

(目標)

調査結果は経営計画の策定、販路開拓、創業支援、事業承継指導に活用する。また、島田市が計画している「しまだブランド」認証制度の下地作りとしての商品開発や商品の掘り起こし並びに販路開拓等の支援を行う。

支援内容	現状	28年度	29年度	30年度
巡回訪問件数(会員)	1,232	1,500	1,500	1,500
巡回訪問件数(非会員)	0	400	400	400
アンケート調査・分析	未実施	1,100	1,100	1,100
(業種別内訳) 製造業	—	250	250	250
(業種別内訳) 建設業	—	200	200	200
(業種別内訳) 小売業	—	400	400	400
(業種別内訳) サービス業	—	250	250	250
(地区別内訳) 川根地区	—	250	250	250
(地区別内訳) 金谷地区	—	500	500	500
(地区別内訳) 初倉地区	—	350	350	350

2. 経営状況の分析に関すること【指針①】

(現状)

島田商工会議所と共同で島田市内の景況調査を年3回経営指導員の巡回訪問による聞き取り等により実施し、情報収集及び経営分析を行っている。しかし、現状は指導員が担当する事業所を巡回し切れず一部事業所のみ留まっている。そのため、巡回件数の総数が不足している、巡回ごとの一貫した対応がとれない、各指導員の情報の共有化が図れないなどの理由により経営状況の分析が進んでいないのが現状である。

(改善に取り組む内容)

指導員の巡回件数の目標を年間一人300件に置き、それを必達目標として実施する。その上で、上記1. で実施した調査結果をもとに、商工会エリア内事業者の経営分析を行う。

(事業内容)

(1) 地域の経済動向調査の結果を基に、下記項目について経営分析を行う。対象は業種ごとに5~6事業者程度をピックアップして年1回実施する。

- ①売上高伸び率、売上構成比等の業種別売上高分析
- ②安全性、収益性、生産性等の業種別経営比率分析
- ③事業承継の現状分析

(2)「島田の逸品—しまだブランドの確立」に向けた新商品開発等を目指す小規模事業者の要望を募り希望者を対象に経営分析を行い小規模事業者の経営計画策定のための基礎資料とする。巡回、経営革新や販路拡大等のセミナーの開催、専門家派遣の相談業務などを実施し、商工会エリアの「島田の逸品—しまだブランドの確立」に向けた新商品開発等を目指す小規模事業者をピックアップし、経営分析を行う。

- ①経営分析によりSWOT分析等に必要な経営指標等を収集
- ②SWOT分析を行って自社の強みを把握

※小規模事業者をピックアップする基準

- ・ 1. 地域の経済動向調査により新商品開発の予定、計画の有と答えた事業所
- ・ 売上減少等経営課題を抱えている事業所
- ・ セミナー等参加者 【指針①】

以上の結果をもとに経営課題を抽出するとともに、「しまだブランド」確立事業、経営革新の認定や販路拡大事業への参画を促す。

(目標)

支援内容	現状	28年度	29年度	30年度
巡回訪問件数	261	300	300	300
セミナー開催回数	11	11	12	15
経営分析件数	0	10	20	30

3. 事業計画の策定支援に関すること【指針②】

(現状)

地区内の小規模事業者は、経営者の高齢化や家族経営のため人手が不足しており、経営課題に対する解決策を提供する機会が少ない。また、創業予定者を把握する機会も少なく、把握しても金融の斡旋を中心とした指導や労働保険手続等の相談など経営改善普及事業の範囲での対応が主となっている。

島田市商工会では経営力向上セミナーを主催し、セミナー参加事業者の中で自社の事業計画を明文化させ、販路拡大のプランが完成した事業者については小規模事業者持続化補助金の申請支援等を行った。さらに中長期プランと革新的アイデアを併せ持った事業者については経営革新計画の申請に関する支援も行い経営革新認定支援の案件の掘り起こしにつなげている。また、島田市中心企業支援協議会でも事業承継セミナーを開催し、特に高齢化のため事業を承継しなければならない事業者が参加して円滑に事業を承継するための手法を学んだ。

しかし、セミナー参加事業者や経営革新計画に取り組む事業者は意識の高い事業者に限られて偏りが見られる。その理由は、セミナーの内容が実際の事業内容と乖離していることや個別事業者のニーズが掘り起こせていない点があげられる。それが個別支援先の事業者増加につながっていない結果になっている。

(改善に取り組む内容)

上記1.の経済動向調査及び上記2.の経営分析により、事業者にとって必要な具体的、実践的なテーマを見つけ、セミナー開催からそれへの参加を促す。それにより、知識の吸収と意識啓蒙を図り、事業計画策定につなげる。さらに、巡回指導において件数だけでなく、現状のヒヤリングと情報発信を徹底することで個別具体的な事業所のニーズを汲み取り事業計画策定支援につなげていく。

同様に、商工会エリアの「島田の逸品—しまだブランドの確立」に向けた新商品開発等を目指す小規模事業者については、「しまだブランド」に求められる要素を把握するための分析を行う。次に、商品企画立案から商品化さらには販売方法に至るまでの事業計画策定支援を行う。

(事業内容)

(1) ブランディングの手法や、現状分析から短期から中長期にわたる事業計画策定に関するセミナー、個別相談会の開催により、事業計画を策定、特にブランド確立に向けた新商品開発等を目指す小規模事業者の掘り起こしを行う。【指針②】

(2) 「しまだブランド」に取り組む事業者に不足していると思われる情報の提供等を行う。静岡県、島田市中小企業支援協議会、よろず支援拠点、ミラサポ、事業引継ぎ支援センター等とも連携し、伴走型の指導・助言を行うことにより、新商品の開発、販路開拓の戦略提案など事業計画策定を支援する。【指針②】

(3) 創業塾(共催)【全4回開講】を開催し、創業希望者の知識向上を図り、創業計画の策定支援を行うことにより、創業支援を行う。また、第二創業(経営革新)に関する相談会を開催し、第2創業(経営革新)計画の策定を支援し、第二創業(経営革新)支援を実施する。【指針②】

(4) 事業計画策定を目指す小規模事業者の他、金融相談、経営革新等補助金の申請時に事業計画策定支援を行う。【指針②】

(目標)

支援内容	現状	28年度	29年度	30年度
セミナー・説明会開催回数	0	0	1	3
事業計画策定事業者数	0	10	20	30

4. 事業計画策定後の実施支援に関すること【指針②】

(現状)

経営改善、経営革新、創業、事業承継等の個別相談により事業計画策定後支援は実施している。しかし、巡回時の積極的なアプローチが進んでおらず、事業計画に取り組む事業者の意見交換等の場が設定されていない。そのため、相談案件は、経営改善416件、経営革新26件、創業1件、事業承継0件と伸び悩んでいる。さらに、その後の具体的なフォローアップ案件は経営改善78件、経営革新16件、創業1件、事業承継0件と少

数であり、個別の対応にとどまっている。

(改善に取り組む内容)

事業計画を策定し、そこに取り組む事業者に対して積極的なアプローチを行う。計画の進捗状況のヒヤリングや課題の把握を行うとともに、支援策などの情報発信を実施する。また、専門家によるフォローアップや事業者同士の意見交換の場を設定する。

特に、「島田の逸品—しまだブランドの確立」に向けた新商品開発等を目指す小規模事業者については、事業計画策定支援を行った後島田市中小企業支援協議会、よろず支援拠点、ミラサポ等と連携したフォローアップ支援を行う。そして、経営革新等の個別相談会等を設けるとともに新商品の企画立案から販売に至るまでの手法を身に付けてもらう。また、日本政策金融公庫の新制度「小規模事業者経営発達支援融資制度」を支援メニューに加え、制度の周知と積極的活用を努め、制度利用者のフォローアップもこころがける。

(事業内容)

(1) 創業後は、先輩経営者との意見交換会、専門家による個別フォローアップ、税務相談を重点的に行い、販路開拓の戦略提案、事業計画策定を支援する。【指針②】

(2) 商工会エリアの「島田の逸品—しまだブランドの確立」に向けた新商品の開発の支援をする

(3) 事業計画策定後に、国、県、市、県連合会の行う支援策等の広報、案内により周知フォローアップを実施する。【指針②】

(4) 事業計画策定後に、必要に応じて1か月に1回巡回訪問し、進捗状況の確認を行うとともに、必要な指導、助言を行う

(目標)

支援内容	現状	28年度	29年度	30年度
創業塾開催回数(共催)	3	3	5	5
創業・経営革新個別相談会	未実施	1	3	4
創業支援者数	3	3	5	5
第二創業(経営革新)支援者数	0	1	3	3
しまだブランド認定新商品数	未実施	0	5	10
周知によるフォローアップ件数	0	15	30	45

5. 需要動向調査に関すること【指針③】

(現状)

静岡県で実施していた消費動向調査は平成18年度をもって終了している。消費動向調査は、静岡県商業まちづくり室、静岡県下商工会、商工会議所が実施機関となる県内消費者の買い物行動や消費者意識の実態を把握するものであり、島田市の消費動向が把握できていた。しかし、それ以後同様の調査は行われておらず、島田市並びに島田市商工

会においても同様の調査は実施されていない。そのため、従来把握できていた衣料品、食料品、日用品等の購買動向や大型店、コンビニエンスストア、通信販売などの影響度が把握できていないのが現状である。

(改善に取り組む内容)

商工会エリアの地域住民を対象に需要動向調査のためアンケートを実施する。消費者ニーズ、消費者目線から見た情報収集を行い、小規模事業者の経営計画策定のための基礎資料とする。また、「島田の逸品—しまだブランドの確立」に向けた新商品開発等を目指す事業者のための基礎資料としていく。さらに、消費者懇談会等を開催し、消費者の生の声を聴く。

(事業内容)

(1) 小売業、サービス業、飲食業、観光業の会員事業者の協力の下でアンケート調査を実施する。商工会の経営指導員もしくは事業者が来店客への聞き取り調査を行う。年1回1事業所あたり20~30人を対象にして総数で300人程度を目標とする。

(2) アンケート結果を収集、分析し商工会内の商業部、観光部、広報部等で発表する。それら分析結果を小売業、サービス業、観光業の経営に役立ててもらおう。さらに、商工会エリアの「島田の逸品—しまだブランドの確立」に向けた新商品開発等を目指すための基礎資料とする

(3) 消費者の生の声を聴くため、10人~15人程度の消費者懇談会を実施する。対象は30代から60代の女性とし、専業主婦や会社員、個人事業主まで幅広い層からメンバーを抽出する。日常の消費行動や消費者目線での商工会エリアの小売業者等に対する要望など自由な意見交換の場としていく。そこで出された意見は商工会がとりまとめ小売業者等の商業者にフィードバックしていく。

(目標)

支援内容	現状	28年度	29年度	30年度
需要動向調査(人)	未実施	300	300	300
消費者との懇談会等会議(回)	未実施	1	1	1

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること【指針④】

(現状)

島田市商工会エリアはお茶や観光が主産業になっているが、お茶産業の低迷や人口減少の影響を受け需要の開拓が進んでいない。そのような状況下であっても小規模事業者の中には、ユニークなアイデアで商品開発をしたり、研究開発を実施したりしているところもある。そのような事業者に対しては経営革新計画の認証取得支援を行い、経営革新補助金を利用した各種販路開拓への取組を支援している。また、お茶関連についてはものづくり補助金の申請支援を通じた生産性向上につなげる支援を実施した。

さらに、商工会連合会が主催する特産品等販路開拓支援事業への参加を呼びかけ、その中で実施される物産展、商談会、並びに展示会への出展を促進している。また、小規模

事業者持続化補助金の積極的な活用を勧めている。

しかし、上記の事業に取り組む事業者の掘り起こしが進んでいないため参加事業者が拡がらないのが現状である。その結果、ノウハウや情報を伝える機会が少ないため、新規の販路開拓が進んでいないのが現状である。

(改善に取り組む内容)

新商品、新サービスの開発に取り組む事業者については静岡県商工会連合会や静岡県産業振興財団が実施する専門家派遣事業やよろず支援拠点、ミラサポ等の制度を活用した支援を行っていく。特に、商工会エリアの「島田の逸品—しまだブランドの確立」に向けた新商品開発等を目指す小規模事業者を支援するため、上記に加え志太榛原地区内商工会や島田市中小企業支援協議会と連携して展示会、商談会を共同開催し、売上の増加を図る。また、地域ブランドとして評価できる商品等を確立し、認知度を向上させ、島田市の観光資源としても活用できるよう支援する。

平成 27 年度島田市は商品・サービス分野を先行させて「島田の逸品」として 10 ブランドを選定した。そして、その中に商工会事業者が 4 ブランド入っている。平成 28 年度以降も島田市全体で 10 ブランド選定されると仮定した場合、商工会事業者から 5 ブランドの選定を目標としていく。その後、観光や歴史・文化を含めた「しまだブランド」として正式に発足した場合にも、その 50%を商工会地区から選定されることを目標としていく。

観光においては、富士山静岡空港の利用推進や小売店、サービス店などの観光マップの作製に取り組み需要開拓に取り組む。

(事業内容)

(1) 1. 地域の経済動向調査、2. 経営分析で調査した企業を中心に、現状を把握したうえで地域ブランド化への取り組みを促進するためのセミナーの開催や個別相談支援を行う。

(2) 島田の地域資源や伝統文化、技術等が活かされた商品の評価や開発に係るアドバイス等を行い、島田ならではの商品力を備えた品の掘り起こしや開発支援を行う。

(3) 島田域外や静岡県外にまで販路開拓が可能な島田の隠れた逸品を商工会版のしまだブランド候補「島田の逸品」として選定し、「しまだブランド」発足時の認定支援並びに販路開拓支援を行う。

(4) 3. 事業計画の策定の実施支援先やしまだブランドの認定を目指す事業者を中心に展示会や商談会への出展者を選定する。出展者には、参加事前セミナーや商品ブラッシュアップ、販売ツール作成支援を行う。出展後は、実際の商談に繋がるようにフォローアップを行う。

(5) 支援先企業の商品に対して、商工会としての広報活動やイベント開催、マッチング支援を行い、「しまだブランド」の確立と情報発信を実施する。

(6) 専門家派遣事業等の国や県、市、による様々な中小企業支援施策を活用すると同時に各種補助金への応募、採択後の事業実施支援を行っていく。

(目標)

支援内容	現状	28年度	29年度	30年度
「島田の逸品」ブランド認定数	10	10	5	5
上記のうち商工会からの選定	4	5	2	2
「しまだブランド」認定数(予測)	—	—	10	20
上記のうち商工会からの選定	—	—	5	10
展示会、商談会参加回数(県連合会主催)	0	1	1	1
展示会、商談会参加回数(志太榛原地区商工会主催)	未実施	1	1	1
展示会、商談会参加者数	未実施	5	20	30
展示会、商談会商談数	未実施	10	30	40
展示会、商談会商談成立数	未実施	2	5	10

※展示会、商談会出展支援者数の数値は、2. 経営分析、3. 事業計画の策定・実施支援によりピックアップした小規模事業所を対象にした数値である。

II. 地域経済の活性化に資する取組

(現状)

島田市にはプラス面の環境変化やいまだ生かし切れていない資源がある。プラス面は平成21年6月の富士山静岡空港の開港であり、山間部寄りに金谷インターチェンジが設けられ平成24年度に開通した新東名高速道路である。また、当地域は、奥大井入口の旧金谷町を起点とする大井川鉄道のSLや、美しい自然景観や温泉、個性ある伝統文化が大きな観光資源となっている。さらに、旧東海道の宿場町として栄えた島田市には文金高島田で有名な「島田髷」や日本3大奇祭のひとつに数えられる「帯祭り」、世界一長い木造橋の「蓬莱橋」等歴史や文化が豊かである。しかし、そのような情報発信が十分になされておらず、空港ターミナル、高速道路ICなどの交通アクセスの充実さ、温泉等の観光資源など環境に恵まれているものの、他の観光地への通過地となっており、地区外からの誘客等も不足しているのが現状である。

また、島田市は特に中山間地域の川根地区は人口減少と少子高齢化の伸展が顕著であり、小売店や飲食店の減少、農林業の担い手不足、地域内のコミュニケーション不足等が現実的な課題となっている。商工会議所エリアにおいても同様に少子・高齢化は進行し、郊外型大型ショッピングセンターの進出で市中心部にかつての賑わいはなくなりつつあり、買い物難民の増加が懸念される状況である。

(改善に取り組む内容)

小売・飲食などの商業や金融、公共交通などの民間サービスは採算性が優先されるため利用人口が減少すれば撤退せざるを得なくなる。そのような生活関連のサービスを提供し続けていくには一定規模の需要確保と低コストで利益が出せる新たな仕組み作りが必要となる。

そのために、島田市、島田商工会議所、島田観光協会等と連携し、今後の地域経済活性化の方向性を検討し、地元地域におけるブランド商品のPRに努めていくことを目的に動向情報を共有していく。「島田の逸品—しまだブランドの確立」を事業の中心において需要の拡大、低コストで運営可能なビジネスモデルの構築を支援していく。また、現在継続している、「初倉まつり」、「金谷文化産業祭」、「川根ふる里ふれあいまつり」等が検討した地域経済活性化の方向性に合致しているかの検証をする。

(事業内容)

- (1) 島田市、島田商工会議所、島田観光協会等で構成する「島田市活性化会議」を計3回行い、会議において「しまだブランド」を中心とした地域経済の活性化の方向性について検討し、共有していく。
- (2) 「しまだブランド」のPR、消費拡大を目的とした島田産業祭を島田市、島田商工会議所、島田観光協会等と連携して実施する。開催日、会場等は現在特定できないため検討課題とする。

(目標)

支援内容	現状	28年度	29年度	30年度
開催回数(検討会議)	未実施	3	3	3
イベント開催回数	未実施	0	0	1
出展者数	0	0	0	60
来場者数	0	0	0	10,000

※28, 29年度は既存のイベント(「初倉まつり」、「金谷文化産業祭」、「川根ふる里ふれあいまつり」)に参加して周知を図る。

Ⅲ. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

(現状)

平成26年度に島田市中心企業支援協議会(島田市・島田商工会議所・島田市商工会・島田信用金庫)を設立した。毎月1回協議会を開催し、支援ノウハウ、支援の現状について情報交換をしている。また、各機関で開催するセミナー等への参加も積極的に行っている。

さらに、中部地区商工会連絡協議会所属の経営指導員による経営支援会議を年2回程度開催し、広域支援体制等の情報交換をしている。

(改善に取り組む内容)

島田市中心企業支援協議会は、同一地域内の支援機関であるため地域の共通の情報が共有できる。販路開拓等の状況等の情報交換の時間を新たに設けることにより、需要開拓

の効果が期待できる。

また、中部地区商工会連絡協議会所属の経営指導員による経営支援会議において、販路開拓の情報交換の場を新たに設けて、支援ノウハウ、支援の現状について情報交換をする。経営指導員の経験の差による支援体制の課題の解決に効果が期待できる。

2. 経営指導員等の資質向上等に関すること

(現状)

平成28年度より経営指導員が3人になり、経験が浅く支援体制に課題が生じる。

(改善に取り組む内容)

静岡県商工会連合会が主催する研修の参加に加え、中小企業大学校の主催する研修に経営指導員等が年間1回以上参加することで、売上や利益を確保することを重視した支援能力の向上を図る。

経営指導員のみならず、補助員、記帳専任職員等も受講を促す。

若手指導員については、月1回指導員会議等を開催し、ベテラン指導員との情報交換により資質向上を図る。

また、中小企業診断士、社会保険労務士等の資格を取得するための講座等の受講を促す。

3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること

毎年度、本計画に記載の事業の実施状況及び成果について、以下の方法により評価・検証を行う。

①総務委員会に検討委員会を設け、市担当課職員、税理士等の有識者を加え、事業の実施状況、成果の評価・見直し案の提示を行う。

②理事会において、評価・見直しの方針を決定する。

③事業の成果・評価・見直しの結果については、総代会へ報告し、承認を受ける。

④事業の成果・評価・見直しの結果を島田市商工会のホームページ (<http://www.shimada-sci.jp/>) で計画期間中公表する。

(別表 2)

経営発達支援事業の実施体制

経営発達支援事業の実施体制	
(平成 27 年 4 月現在)	
(1) 組織体制	
経営発達支援事業実施人数 経営指導員 3 人 記帳専任職員 2 名 計 5 名	
島田市商工会 会員数 1,057 名	
役員 会長 (1 名)、副会長 (2 名)、理事 (30 名)、幹事 (2 名)	
議決機関 総会、理事会	
運営機関 各種部会、各種委員会	
事務局 経営指導員 3 名 事務局長、経営支援員 2 名	
記帳専任職員 2 名 記帳指導職員 2 名 記帳指導員 1 名	
(2) 連絡先	
本所、金谷支所	〒428-0026 静岡県島田市金谷本町 2014-2 ☎0547-45-4611
初倉支所	〒427-0111 静岡県島田市阪本 1449-1 ☎0547-38-0009
川根町支所	〒428-0104 静岡県島田市川根町家山 359 ☎0547-53-2170
ホームページアドレス	http://www.shimada-sci.jp/

(別表 3)

経営発達支援事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法

(単位 千円)

	平成 28 年度 (28 年 4 月以降)	29 年度	30 年度
必要な資金の額	2,189,000	1,683,000	3,683,000
小規模企業対策事業費			
調査事業費	506,000	0	0
需要事業費	570,000	570,000	570,000
事業計画策定事業費	153,000	153,000	153,000
第二創業事業費	50,000	50,000	50,000
販路開拓支援事業費	910,000	910,000	910,000
地域活性化事業費	0	0	2,000,000

(備考) 調査事業については、初年度外部委託を予定し、29年度、30年度は経営指導員等による調査のため事業費の予定はない。

調達方法	
会費等 (商工会自主財源)	180,000
国補助金	5,206,000
県補助金	2,169,000
計	7,555,000

(別表4)

商工会及び商工会議所以外の者と連携して経営発達支援事業を実施する場合の連携に関する事項

連携する内容
I. 経営発達支援事業 2. 経営状況の分析に関すること 3. 事業計画策定支援に関すること 4. 事業計画策定後の実施支援に関すること 5. 需要動向調査に関すること 6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること II. 地域経済の活性化に資する取組
連携者及びその役割
(連携者) 島田市中企業支援協議会 島田市 【静岡県島田市中央町1番の1 島田市長 染谷絹代】 島田商工会議所【静岡県島田市日之出町4-1 会頭 原田 康】 島田市商工会 【静岡県島田市金谷本町2014-2 会長 大塚光宏】 島田信用金庫 【静岡県島田市本通3丁目2番の1 理事長 岩原茂雄】 (役割) ①上記2. 及び5. のうち、専門課題に対する相談、情報収集 ②上記3. 及び4. のうち、事業計画策定等に対する助言指導及び創業関連セミナーの共同開催 ③上記6. のうち、展示会、商談会等の共同開催 (連携者) 中小企業基盤整備機構(よろず支援拠点) 【静岡県静岡市葵区黒金町20-8 コーディネーター住川順一】 静岡県事業引継ぎ支援センター 【静岡県静岡市黒金町20-8 統括責任者 清水至亮】 静岡県商工会連合会(ミラサポ窓口) 【静岡県静岡市追手町44-1 会長 前澤 侑】 (役割) ①上記2. 及び5. のうち、専門課題に対する相談、情報収集 ②上記3. 及び4. のうち、事業計画策定等に対する助言指導及び創業関連セミナーの講師等依頼 ③上記6. のうち、展示会、商談会等の助言指導

(連携者) 島田市観光協会

【静岡県島田市金谷新町14-2 会長 鳴嶋秀夫】

(役割)

①上記Ⅱ.のうち、島田市、島田商工会議所、島田観光協会等で構成する「島田市活性化会議」の開催に伴う助言指導

連携体制図等

